

金閣寺^{きんかくじ}は平野^{ひらの}の乾^{かぬ}、衣笠山^{きぬかさ}のふもとにあり。禪宗^{ぜんしゅう}にして、鹿苑寺^{ろくをんじ}ともいふ。応永四年^{しやうぐんよしみつこう}に將軍義満公^{しやうぐんよしみつこう}〔鹿苑院院殿なり〕高閣をたて、花美をつくし、金箔を以て一面に粧ひ、閣の前には池広くして、九山八海^{くせんはつかい}となづけ、伝ふる奇石さまぐあり。金閣^{きんかく}三重にして第一^{はふすゐあん}を法水院^{はふすゐあん}といふ。〔弥陀の三尊、夢窓国師の像、鹿園院殿道義の像あり〕第二^{てうおんとう}を潮音洞^{てうおんとう}といふ。〔自然木の観音、四天王を安ず〕第三^{くきやうちやう}を究竟頂^{くきやうちやう}といふ。〔後小松院勅額あり、板敷三間四面一丈板、四壁の板ことごとく金箔を押す〕むかしは境地はなはだ広かりしなり、惣門^{そうもん}は紙屋川^{かいがは}の西、今の地蔵院^{ちざうあん}の傍にあり、礎今にあり。御所を芳徳^{はうとく}といふ、金閣^{きんかく}の廻りみな池にして、芳徳^{はうとく}の間に反橋を架す、池の南に拱北楼^{きやうほくらう}あり、巽^{こみ}に小御堂^{こみだう}あり、東に地蔵堂^{ちざうだう}〔数体安ず〕其地を地藏本といふ、其北に大塔^{だいたう}あり、本尊弥勒^{ほんぞんみろく}、方丈の北に一峯あり縦目峯^{じうもくほう}と号しぬ、北方の奇觀此地にすぐれたるはなし。